

New York コラム

第 23-2 号

ニューヨーク国際現代家具見本市 (ICFF) ～家具・インテリア関連商品の販路開拓～

ビジネス、ファッションの中心地ニューヨークでは、一年中様々な業種の展示会、見本市が開催される。毎年5月には、「ニューヨーク・デザイン・ウィーク」と称され、ニューヨーク市内各所でデザイン関連のイベントが催される。その中核的なイベントとして、今年も国際現代家具見本市 (ICFF) が開催された。本コラムでは、今年ICFFに参加した、北米市場での販路開拓・拡大に挑戦する中小企業の出展の様子をレポートする注¹。

【国際現代家具見本市 (ICFF)】

第23回「ニューヨーク国際現代家具見本市 (International Contemporary Furniture Fair : ICFF)」は、5月14日から17日の4日間、ハドソン河畔に位置するニューヨーク市内最大級の展示会場ジャビッツ・コンベンションセンターで開催された。当見本市は、北米最大級のコンテンツポラリー家具・インテリアデザインの国際見本市として、ニューヨークのみならず毎年世界の業界関係者から高い注目を集めており、情報発信には影響力がある注²。

【ジャパン・パビリオン】

ICFFでは、企業ごとのブースに加え、複数の企業が共同で国別ブースを設けており、今年はスペイン、オーストリアなど12か国がブースを構えた。日本からも、独自に出展した企業に加え、ジェトロが「ジャパン・バイ・デザイン」のテーマで、信用金庫取引先を含む中小企業14社で構成されるジャパン・パビリオンを出展した。この14社のうち、9社が初出展である。

今年のジャパン・パビリオンの特徴は、家具などの最終財だけではなく、タイル、壁材、布、紙などのインテリア関連素材を扱い、建築家、インテリアデザイナーなどとのコントラクトビジネスを目指す出展企業が目立った。



「ジャパン・パビリオン」入口

¹ 昨年の出展の様子は、ニューヨーク駐在員事務所：ニューヨークコラム第 22-2 号「米国市場における日本の家具・インテリア商品の販売促進」で紹介

² 11 年は 39 か国 550 社・団体が出展し、うち半数近くが米国外からの出展となった。世界中からインテリアデザイナーをはじめ、流通業、小売業、製造業、建築家など約 2 万 4 千人が集った。

【日本からの出展企業事例】

株式会社ナガエ（富山県高岡市）は、主力事業であるアルミサッシなどの金属加工に加え、高岡銅器の伝統的な技術を受け継ぎ、仏具なども製造している注³。近年は、アートとデザインの融合を目指した商品開発にも力を注いでいる。日本国内の展示会場で、同社製品を目にしたジェトロ職員に勧められ、今回の出展を決断した。ブースには、将来の顧客と見込まれる小売業者などの来場者が次々と立ち寄っていた。同社の熊本代表取締役専務は、「素材やデザイン性にこだわった商品を当地のホテルやレストランなどに販売したい」と意気込みを語った。



株式会社ナガエの展示ブース（その1）

同社製品は、銀製キャンドル立て、錫製金箔張のコップなど、贈答品にも選ばれる付加価値の高いものが多い。「来場者からの反応は良かったが、実際のビジネスにつなげるには乗り越えるべきことも多い。半年後のギフトフェア冬に出展し、再度ニューヨークでマーケティングを行いたい」と早くも次の一手を考え始めていた。



株式会社ナガエの展示ブース（その2）



株式会社ナガエの展示ブース（その3）

MOLZA株式会社（岐阜県関市）は、美濃和紙を使った製品や、化学繊維を紙すきの技術で加工する耐久性と和紙の風合いを合わせ持つ製品を製造している注⁴。海外向けには、中国向け輸出の実績があり、上海には販売営業拠点としてショールームを設置している。高品質、高付加価値製品のさらなる販路拡大のため、ニューヨークへの出展を決めた。同社は「ICFFへの出展ははじめてだが、以前同社の素材を使った製品が出展され注目を浴びた」ことがあり、今回自ら出展することに決めたという。

日本では、ブラインド、照明など最終製品も多く扱っているが、ICFFでは、メーカー、設計事務所、インテリアデザイナーなどへの売込みを狙い、装飾パネル、ブラインド、ロールスク

³ <http://www.nagae.co.jp/>

⁴ <http://www.molza.co.jp/>

リーン用素材などの中間財を中心とした展示を行った。デザインも、純和風な風合いではなく、ニューヨークという土地柄を意識し、コンテンポラリーなものを中心に据えた。同社梅村氏は、「初のニューヨークでの展示会出展で、不安もあった」とのことだが、会場では、ジェトロが手配した日英堪能な通訳やアシスタントと共に、次々と足を止める来場者の対応に追われ、不安も吹き飛んだようだ。



MOLZA 株式会社の展示ブース（その2）



MOLZA 株式会社の展示ブース（その3）

アキ工作社（大分県国東市）は、段ボールを素材とし、立体造形するインテリアグッズ「d-torso」の製造、販売を行う注⁵。同社は、これまで、欧州での展示会出展実績があるが、新しいものを受容する文化のあるニューヨークで同社の製品をマーケティングすることも効果的と考え、ICFFへ出展した。ブースには小売業者などの来場者が次々と立ち寄っていた。同社のカラフルな動物のミニチュアフィギアは、「会社のロゴなども入れることができるので、ノベルティ用商品になる」と来場者に提案し、米国や欧州などでの販売拡大につなげていた。

同社のデザイナーでもある松岡代表取締役社長は、「ICFFへは、今回はじめての出展だったが、反応は良く、手ごたえを感じている」と語った。実際、同社ブースにあるディスプレイのうち、ひときわ目立つキリンと動くマネキンは、来場したバイヤーからその場で注文が入った。購入者は、ヨーロッパから来場しており、大規模な見本市ならではの、「業界関係者層の厚さを実感した」と感想をもらした。



アキ工作社の展示ブース（その1）



アキ工作社の展示ブース（その2）

⁵ <http://www.wtv.co.jp/>

【おわりに】

ジェトロが支援している「ジャパン・バイ・デザイン」は、単なるデザイン性や機能性だけでなく、日本の伝統工芸に由来する技術、先端技術を応用した技術など、日本の工業製品の奥深さを感じられた。想像以上の来場者の反応の良さに自社製品に自信を深める出展企業が多かった一方、米国の商習慣に合わせた価格設定や、ライフスタイルに合わせた商品性など、改善すべき点も多いとの声も多く聞かれた。ICFFに限らず、一度の国際見本市出展が大きなビジネスに結びつくことは少ない。マーケティング活動、商品性の改善を継続し、北米での販売拡大に結びつけて欲しい。

以 上

「ニューヨーク国際ギフトフェア 2011 夏展」 視察のご案内

ジェトロは、ニューヨーク国際ギフトフェア 2011 夏展の会場で、今後、北米での見本市出展などを検討している企業を対象に、個別相談を実施する。先行他社の出展事例を視察すると同時に、在米のジェトロコーディネーターから直接アドバイスを受けられる機会となっている。

会期：2011年8月14日（日）～8月18日（木） 5日間

開催地：米国・ニューヨーク [Jacob K. Javits Convention Center]

出品対象物：デザイン性のある雑貨・日用品、ギフト用品など

詳細は E-mail (jetrony@jetro.go.jp)

執筆：信金中央金庫 ニューヨーク駐在員事務所 (2011.7.14)

(文中意見にわたる部分は筆者の個人的意見であり、必ずしも信金中央金庫の見解を反映させたものではありません。本レポートは、掲載時点における情報提供を目的としています。したがって施策実施・投資等についてはご自身の判断によってください。また、本稿は、執筆者が信頼できると考える各種データ等にもとづき作成していますが、当事務所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。)

信金中央金庫 ニューヨーク駐在員事務所 TEL (国番号1) -212-642-4700